

乳がん集団検診における禁忌事項

マンモグラフィ検診ではしこりとして触れないごく早期の乳がんを発見することができますが、集団検診においては適さない方々もいらっしゃいます。重大な事態が起こる可能性も否定できませんので、下記に当てはまる方は必ずお申し出ください。検査を受けられる皆様には、この検査とそれによって得られる診断や利益についてよくご理解いただきたく思います。当事業団では万全の注意を払い、少しでも苦痛が少なく、より安全に短時間で検査が終わるように努力いたします。

マンモグラフィ撮影ができない方

禁忌および注意事項

- ・心臓ペースメーカー
- ・CVポート（薬液注入器具）
- ・V-Pシャントなどの医療機器が前胸部に入っている方

・圧迫により医療機器が破損することが危惧されます。またコードやチューブ等の位置がずれるなどの不測の事態が起きないとは断言できず、安全に撮影できる保証は得られません。超音波（エコー）など医療機器に影響の無い（圧迫をしない・X線や磁気を使用しない）検査を医療機関にて受診することをお勧めします。

- ・ペースメーカー装着の方：循環器科（ペースメーカー外来）
- ・CVポート・V-Pシャント術後の方：治療施設のある医療機関での相談・受診をお勧めします。

- ・豊胸術を受けたことがある方
(シリコン注入・シリコンバッグ・生食バッグ・ヒアルロン酸注入等)

・圧迫により内容物が破裂し、乳房の萎縮がおこり歪んだ形状になる危険性があります。多くの受診者を扱う集団検診では安全であると保証することはできませんので、集団検診を受診することは推奨できないとされています。また集団検診では内容物を避けて撮る追加撮影ができません。通常の撮影のみですと内容物が障害となり乳房全体を写し出すことができませんので撮影を受けられても読影不能となり検査結果はできません。いろいろな検査を組み合わせる乳房全体を診断する乳腺外来の受診をお勧めします。

- ・乳房手術後1年以内の方

・手術後、経過良好で通院していた病院より通院不要・以後は集団検診受診による乳房管理に戻ってよいと指示された方のみ撮影できます。主治医より指示を受けていない方は通院中の医療機関にて検診をお受け下さい。

- ・妊娠している方
- ・妊娠の可能性のある方

・マンモグラフィはX線検査なのでごくわずかですが放射線被ばくがあります。乳房だけの部分的なもので白血病などの発生の危険はありませんが、妊娠中や妊娠の可能性のある方は胎児への影響を考慮しなければなりません。大量の放射線を受けなければ問題はありますが、放射線感受性の高い胎児への被ばくを最小限にするために妊娠中は不用意に医療被ばくなどをしないように注意が必要とされています。超音波（エコー）検査などのX線を使用しない検査を医療機関にて受診することをお勧めします。

- ・授乳中の方（夜間授乳も含む）
- ・断乳後6ヶ月未満の方

・母乳を作り出すために乳腺が発達した状態になっています。そのような場合、マンモグラフィでは乳房全体が白く写ってしまうため、腫瘍やしこりがある場合、その白さに隠れてしまい正確な判断が困難になります。また母乳が大量に出るため適正圧迫がかけられず、放射線の被ばく量も増えてしまいます。超音波（エコー）検査などを乳腺専門外来にて受診することをお勧めします。